

大豆だより

第4号

令和3年7月20日発行
西村山農業技術普及課
TEL：0237-86-8215

1. かん水

○タイミング、時期

- ・開花期以降に土壤の乾燥が続くとき
- ・降雨の見込みがなく、晴天が1週間程度続き、土が白く乾燥した場合
- ・日中に大豆の葉が立ち、半分以上の葉で裏面が見えるようになった時期

- ・乾燥が続き土壤表面に亀裂が生じたとき

○方法

- ・暗渠を閉じてほ場周囲の明渠にかん水し水分を補給しましょう。
- ・畦間かん水は朝夕の涼しい時間帯に行い、ほ場全体に水が行き渡ったら速やかに排水します。
- ・過度のかん水は、湿害を招くので絶対に避け、ほ場全体に均一に水が行き渡るよう、2、3日に分けて徐々にかん水しましょう。

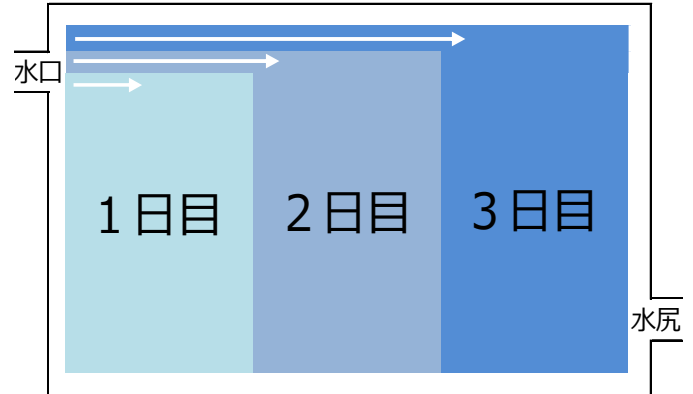


図 畦間かん水方法

※30a規模の圃場では3日間に分けて徐々にかん水する

2. マメシクイガの防除

- ・成虫は8月中旬頃から発生し、8月下旬～9月上旬にかけて産卵最盛期となります。
- ・卵は6～10日でふ化し、幼虫が莢に食入して、子実が食害されます。
- ・産卵最盛期が防除適期であり、**8月25日頃**と**9月5日頃**の**2回防除**が基本。
- ・莢まで薬剤が付着するように散布すると防除効果が高まります。

3. 紫斑病の防除

- ・開花期～子実肥大初期にかけて感染し、特に開花12～40日後が感染適期となります。
- ・登熟期間の気温が25℃以上で多湿条件となると感染が助長されます。
- ・**開花期25～35日後**が防除適期です。

※マメシクイガの1回目防除と同時に防除可能。

- ・莢まで薬剤が付着するように散布すると防除効果が高まります。



紫斑粒(罹病子実)

STOP 農作業事故！！あせらず、ゆとりを持って作業を進めましょう！

農薬危害防止運動実施中！！農薬を適正に使用し、農薬事故を防ぎましょう！

熱中症に要注意！！水分補給をしっかりと行い、適度に休憩をとりましょう！